

第 1 回

2016.5.15

高松赤十字病院

JMECC を開催しました



副院長 大西宏明

テレビドラマで人が病院で亡くなる場面では、それまで規則正しく動いていた心電図モニターの輝線が平坦（フラット）になり、医師が臨終を宣言しています。しかし、実際の医療現場ではそうでないことを職員の皆さんはご存知だと思います。実際には、次の4つの心電図波形を心停止とみなします。

Asystole：心停止、VF(ventricular fibrillation)：心室細動、PVT(pulseless ventricular tachycardia)：無脈性心室頻拍、PEA(pulseless electrical activity)：無脈性電気活動

目の前で人が倒れて、心電図でこのような波形を示す状況に出くわしたときの最初の10分間の蘇生処置を学ぶために、日本救急医学会ではICLS(Immediate Cardiac Life Support)を策定し、当院でも毎年救急部の伊藤部長により行われています。



JMECC (Japanese Medical Emergency Care Course) は、日本内科学会がICLSを基礎に「内科救急」をプログラムに導入して、心停止時のみならず、緊急を要する内科急病患者に対応できるようにした講習会です。来年度から始まる新内科専門医制度では、専攻医は必須とされており、将来的には総合内科専門医に義務化される可能性もあります。

今年度から赤十字本社の呼びかけにより全国の赤十字病院が内科専門医プログラムの基幹を予定している病院でのJMECC開催を支援していくことになり、「日本赤十字社内科専門医 制度連絡協議会」が設立されました。この制度を利用した最初が当院で開催された今回のJMECCです。このため、講習会運営の責任者であるディレクターが名古屋第二赤十字病院の横江医師、ブース長が長岡赤十字病院の江部医師、インストラクターが和歌山医療センターの浜崎医師という豪華な陣容であり、外山第二循環器内科部長を始めとした4名のアシスタントインストラクターの指導により、当院の内科医6名が受講しました。

このように当院では初めてでだけでなく日赤全体でも初めてのことであったため、医療業務推進課の担当の方には膨大な準備をしていただき、また、当日は看護部から宮瀬師長さん、岡田さん、今井(旧姓：日中)さんにもご協力いただき、充実した講習会が行えました。紙面を借りてお礼申し上げます。来年度以降も毎年開催する予定です。

